

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会
ファシリテーションサポート委員会
災害復興支援グループ
2015 ～ 2016 活動報告書

〈FAN〉ファシリテーター養成プロジェクト
ラーニングコミュニティ・ネットワーク ————— 2

熊本地震、ファシリテーションによる復興支援
～熊本県上益城郡嘉島町での活動報告 —— 4

広域避難者支援の話し合いの場を支える
ファシリテーション ————— 5

活動一覧 2015 年度、2016 年度 ————— 6

日本ファシリテーション協会と
災害復興支援グループ ————— 8

〈FAN〉 ファシリテーター養成プロジェクト ラーニングコミュニティ・ネットワーク

自団体のスタッフに 研修を実施、スキルアップ

三浦 まり江さん
NPO法人陸前高田まちづくり協働センター（岩手県）
2015年度参加

参加に当たっては、アイデアや意見を具体化していく段階で、どの意見をどうやって掘り下げるのかのコツやポイントを学びたいと考えていました。

講座では、ファシリテーションの全体の流れを改めて学ぶことができ、また役割を再認識できました。また、自分がファシリテーターを務めた模擬ワークで発散と収束、整理をグラフのような図で可視化されたことで、自分の癖（発言を飛ばせすぎて中々整理の段階に行けない）に気づきました。他のFANメンバーのファシリテーションも人それぞれ多様で参考になりましたね。

その後、FANの講座を基に、自団体のスタッフ向けに内部研修を実施したところ、新しい気づきがありスキルアップに！特に、目的と目標を混同しがちだったのでその後は気を付けるようになりました。FANの研修で学んだことは今もWS（ワークショップ）や研修の前に読み返す資料にしている、また、研修の進め方自体も参考にしています。地域の人に伝える時の自分の引き出しが増えたと感じています。



黙りがちな人も会議で言葉を出せる、 日常の関係づくりと空気づくりを考えるように

村島 弘子さん
NPO法人移動支援Rera（宮城県）
2015年度参加

メンバーが互いを尊重し一緒に考える組織を切望しながら現状とのギャップに苦しんでいる時期にいただいたFANとのご縁でした。ファシリテーションとは、人々が共に歩むために考えや場を整理することであり、それはその場限りのテクニックだけでは成し得ないということを知りました。同期の皆さんや遠藤さん、杉村さんに様々なヒントをいただき考えを深めることができたのも大きな助けになりました。

組織では、話し合いの場では答えを先回りせずに待つよう気をつけ、黙りがちな人も会議で言葉を出せる日常の関係づくりと空気づくりを考えるようになりました。ワークは私にとって難しいものが多く頭を抱えてばかりでしたが、自分の苦手なことを知ることができたというのも大きな収穫でした。組織も自分もまだまだ発展途上ですが、押し寄せる様々な困難をここまで乗り越えてきたということを自信に変えて、これからも一步一步進んでいきたいと思っています。



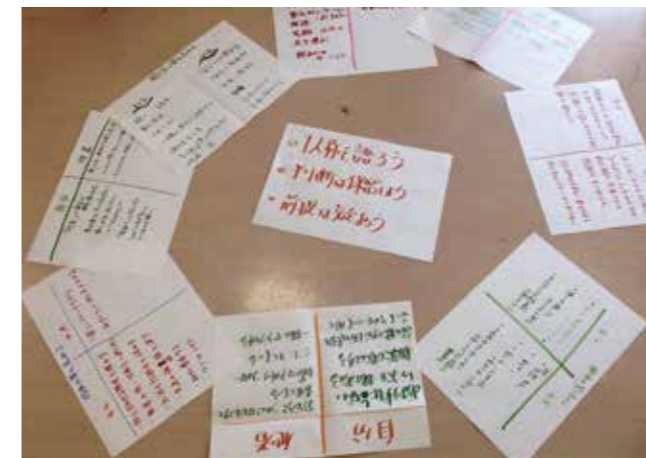
「FAN」は、住民主体の復興プロセスを歩むためにファシリテーションを学び合い、参加者同士が交流し繋がり合うプロジェクトです。2015年度は20名、2016年度は10名が複数回の合宿に参加しました。研修では、それぞれの復興支援活動を紹介し、ファシリテーションの基礎的なスキルを全般的に学び、交流し合いました。さらには、活動での悩みや課題を共有し、解決策を模索しました。今回はFAN参加者から学びや気づき・実践の近況をお寄せいただきました。

「問い」を活用することで参加者の自主性を 促し、エンパワメントに繋げることができる

富田 愛さん
NPO法人ビーンズふくしま（福島県）
2016年度参加

私はFANに申し込む際に、対立に近いことが起こった時にファシリテーターとしてどのように対応したらいいか、また、東北各地の地域課題について知りたかったことと支援者同志の繋がりを作りたいと思って参加しました。講座に参加し気づいたことは「問い」を活用することで、参加者の自主性を促し、エンパワメントに繋げることができるということでした。

講座後は団体で早速実践しました。「ままとーク」（震災後の福島での生活について話し合う会）の組み立てや、ワークにおいて、学んだこと（ワールドカフェ、OSTなど）を実践しました。その結果、参加者がより深いところまで話すことが出来て、満足度が高い場になりました。また、スタッフ会議でも活用し積極的な参加のある会議にすることができました。今回FANに参加したことで、たくさんの学びを得ることが出来ました。ファシリテーションを学び活用する人がもっと増えると、現場で活かされ、ひいてはそこに関わる子ども、若者、ママやパパたちに還元されていくので、積極的に参加を促したいと思いました。



『実践とふりかえり』を繰り返しながら、 自身が成長できるよう頑張りたい

横澤 京子さん
NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター（岩手県）
2016年度参加

私は、被災した地域のNPO・行政等の情報共有の場づくりや基盤強化のための講座の組み立てをする際、ファシリテーションスキルが必要だと思っていました。一方で様々なWS（ワークショップ）や会議の中には「今なんでこんなことするのだろう。早く本題に入ればいいのに…」と思わせる場面も。でも今回学んだ事で、その場面はファシリテーターが目的に合わせてプランニングしたものであるのだと理解できました。その後は、自分が参加する会議やWSでどのように活用できるのか、ファシリテーションの具体例の引き出しを増やすため、場づくり・プログラムの構成・流れ・ファシリテーターの話し方・内容等を意識するようになりました。

FANの後は早速、共有の場での場づくりで座席の配置を工夫したり、地域高校生と地域で働く社会人との交流の場や若者就労支援事業分科会でファシリテーターを務めたりして実践しています。FANで得た知識や経験を『実践とふりかえり』を繰り返しながら失敗を恐れず、自身が成長できるよう頑張りたいと思います。



熊本地震、ファシリテーションによる復興支援 ～熊本県上益城郡嘉島町での活動報告

2016年4月14日の熊本地震から約1年。ファシリテーションサポート委員会
災害復興支援グループ(以下、復興支援G)では現在も嘉島町での復興支援活動を
続けています。ここでは、この中心メンバーである鈴木まり子に活動の様子を聞きました。

しっかりと聴き、受け止める ことの大切さを実感

私が嘉島町に初めて入ったのは発災から約1ヶ月後の5月12日。普段生活する静岡県の特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会と静岡県社会福祉協議会が共同で呼びかけた「熊本地震災害ボランティア」の第一次有志チームで“足湯”ボランティアの一人としてでした。でも、既に入っていた静岡県の先発隊が私のことを「話し合いの専門家」と伝えていたこともあり、当時、避難所の運営を行政主体から住民主体の自主運営に移行することを検討していた嘉島町役場の話し合いのお手伝いをするようになりました。

先発隊との情報共有会議、嘉島町役場で避難所運営を担当されている方との会議、そして避難所の住民代表の方々の会議と続きました。期せずして始まったファシリテーションによる支援活動ですが、いつものように、そこにいる人の思いをしっかりと聴き、受け止めることから始めました。具体的には「自主運営をどうするかという話をする前に、今感じていること、思っていることを話しませんか」と提案したり、発言を書き出して“見える化”などしていったのです。

「地震後、初めて自分の思いを話せた。住民の皆さんにも思っていることを話してもらい、どう運営していくか、皆さんで決め

ていきたい」

「今日は自分の思っていることを話せた。これから行う避難所の班長会議でも同じように思いを話してもらいながら決めていきたい」

そんな、“人は自分の思いを聴いてもらうことで、まわりの人にも思いを話してもらいたいようになる”という連鎖が起きることを目の当たりにしました。

ひとつの会議のために 十分な準備の時間を取る

この時は5月16日までの5日間滞在し、その後も再度嘉島町に伺った時も個人ボランティアとしてでしたが、6月からはFAJの復興支援Gの正式な活動とすることとなり、メンバーや、あるいは熊本在住のFAJ会員の方々と一緒に嘉島町のさまざまな話し合い、会議のお手伝いとして関わりました。

何度も赴いているうちにパターンも定まってきました。会議前日の夜に嘉島町に入り、翌日朝からさまざまな準備、そして午後には会議、というものです。会議は1～2時間ですが準備は十分に時間をとるようにしました。事前に会議の関係者からヒアリングをして背景をしっかりと頭に入れておいたり、全員に必要な情報を話しながら見られるように予め模造紙に書き出しておいたりしました。また、時には同じく熊本被災地に入っていた災害復興支援

の専門家たちに連絡を取り、会議にオブザーバーとして参加してもらうなどもしました。多くの人が想定していなかった災害の場合、当たり前ですが、以前に同じ経験をしている人はほとんどいません。そこで他の災害復興を経験している専門家から情報やアドバイスをもらったのです。私が生活している静岡県では毎年「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」という災害時の助け合いを考えるワークショップを行っており、私はその企画運営スタッフの一人なのですが、そこでつながっている専門の人たちに連絡を取り、電話でアドバイスをもらったり、時には嘉島町まで来てもらったのです。話し合いや会議というのは「誰に参加してもらおうか」という事前準備も大切だと実感しました。

熊本地震の被災地は東日本大震災の被災地同様、まだ復興途上にあります。そして、今後、他にも大きな災害が起きることが予想されています。私たちは普段からつながり、そして有事にはともに支え合わなければならないと思っています。



広域避難者支援の話し合いの場を支える ファシリテーション

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により県外へ避難を余儀なくされた方々は今なお(2017年3月現在)45,000人以上います。避難理由も津波、地震による住宅の倒壊、原発事故による国からの避難指示、国からの避難指示はないものの放射能への不安など様々です。そのような避難者を避難先で支援するNPO、行政、社協、企業、ボランティアも数多く存在しており、避難者の問題が住宅、健康、就労、教育、子育て、貧困など複雑かつ個別具体化する状況においては、各セクターが連携して支援する必要があります。こうした状況のもと、ファシリテーションサポート委員会災害復興支援グループ(以下、復興支援G)では、避難先の支援団体や行政からの依頼のもと、2012年頃から支援団体の連携や課題共有などの場づくりをサポートしてきました。今回は2015年度と2016年度の活動事例の一部を紹介したいと思います。

やまがた避難者支援 協働ネットワークの 話し合いのサポート

山形県は福島県の隣県ということもあり多くの方が避難していることから、山形県が主体となり、避難者の課題共有や支援者同士のネットワーク作りを行っています。復興支援Gでは、2014年より山形県から依頼を受けて、復興支援G以外にもFAJ会員の協力を得ながら、同ネットワークの話し合いをサポートしてきました。話し合いは50名程度の参加者が8～10名程度のグループに分かれて話し合いを行います。広域避難者支援の難しさは、課題が多岐にわたり、かつ個別具体化しているため、ファシリテーターとしても知識が求められることです。また、参加する支援団体のノウハウや知識量にも差があるため、その場で参加者の共通認識づくりと意見が言える場づくりが求められることも難しさの一つです。そのため、アウトプットやアウトカムをどのように設定するのが重要なポイントになりますが、事

前に設定していてもグループの参加者によっては、その場で変更する柔軟さも必要となります。そのため、復興支援Gでは事前に広域避難者支援に関する情報や資料をもとに勉強したり、事前の準備をしっかり行って場に臨んできました。その結果、参加者からは話し合いに集中できた、お互いの状況を知ることができた、自団体で取り組めるヒントを得られたとの感想を毎年いただいています。

愛知県被災者支援センター のケース検討のサポート

愛知県では、県が愛知県被災者支援センターを設置し、NPO等の民間団体にその運営を委託することで、積極的に避難者の支援を行っています。支援内容は、避難者への支援情報の発信、交流会の開催、戸別訪問、ケース検討会議など多岐に渡っています。復興支援Gへ依頼がきた経緯は、東日本大震災の復興支援に関わりがあり、同センターの運営も担っている認定NPO法人レスキューストックヤードからでした。依頼内容は、健康面や

経済面などにおいて深刻な課題を抱える避難者のケース検討のファシリテーションでした。参加者は、保健師、社会福祉協議会、避難者支援を行うNPOなど専門的な方々が集まり、避難者支援のあり方や地域資源へのコーディネートについて話し合います。専門的な見識を持つ方々の多様な意見を短時間で引き出し、まとめていくことは容易ではありません。これまでの復興支援の経験を活かしながら、丁寧にインストラクションを行い、何を話し合い、何を目指すのか、参加者と認識を揃えることで、参加者が話し合いに集中できる場を作っていきます。

広域避難者支援については、多くの方にその実状を知られていないこともあり、風化が加速していますが、避難されている方々の多くの課題は解決されていないどころか、避難者が置かれている環境はますます厳しいものになっています。引き続き、復興支援Gとしても、このように必要などころにファシリテーションを届け、復興支援に役立てるよう活動していきたいと思っています。

活動一覧 2015年度

4月24日	「JCN広域避難者地域活動サポート助成制度報告会」実施支援(東京)	10月14日	「JCN現地会議in福島」実施支援(南相馬)
5月11日	「南相馬市帰還者生活再建検討会」準備会実施支援(南相馬)	10月15日	「市民会議を振り返りながら、今後を考える」実施支援(南相馬)
5月23日	「〈FAN〉ラーニング・コミュニティ・ネットワーク」実施(釜石)	10月30日	「やまがた避難者支援協働ネットワーク全体意見交換会」実施支援(山形)
5月27日	「南相馬市帰還者生活再建検討会」実施支援(他全9回) 相馬)	11月21日	「JCN広域避難者支援ミーティングinかながわ」実施支援(横浜)
5月29日	「読み語り会×専門家インタビュー記録」実施(東京)	11月22日	「読み語り会×専門家インタビュー記録」実施(東京)
6月7日	「〈FAN〉ラーニング・コミュニティ・ネットワーク」実施(福島)	12月1日	「市民会議を振り返りながら、今後を考える」実施支援(南相馬)
6月13日	「〈FAN〉ラーニング・コミュニティ・ネットワーク」実施(石巻)	12月6日	「騎馬武者ロックフェス実行委員会」実施支援(南相馬)
6月13日	「読み語り会×専門家インタビュー記録」実施(西宮)	12月12	「静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」参加(静岡)
6月22日	「相馬市に対して我々が出来る事は何だ!」実施支援(相馬)	12月13日	「〈FAN〉ラーニング・コミュニティ・ネットワーク」実施(仙台)
8月22	「〈FAN〉ラーニング・コミュニティ・ネットワーク」実施～23日(仙台)	1月9日	「南相馬の今 わたしたちができること」実施支援(横浜)
9月18日	「JCN広域避難者支援ミーティングin東京」実施支援(東京)	1月30日	「災害復興支援室活動報告書お披露目会」実施(東京)
9月23日	「常総市水害対応NPO連絡会議」実施支援(常総)(他全13回)	2月11日	「今の復興政策が原発避難者に何をおよぼすのか」実施支援(東京)
10月2日	「JCN現地会議in岩手」実施支援(盛岡)	2月29日	「JCN現地会議in宮城」実施支援(名取)



2016年度

5月14日	「NPO法人スクラム釜石5年間の振り返り会議」(東京)	10月18日	「南相馬市・南相馬役場市役所職員勉強会」(南相馬)
5月18日	「嘉島町避難所の班長会議」(嘉島町)	11月7日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)
6月13日	「小高区帰還者生活再建支援検討会」(南相馬)	11月26日	「福島をいかに海外につなぐかー情報発信者としての役割(広野国際フォーラム)におけるワークショップ」進行支援
6月17日	「嘉島町避難所の班長会議」(嘉島町)	11月22日	「熊本地震・避難所支援の課題と解決策への智恵の共有ワークショップ」進行支援
7月4日	「嘉島町役場と代表者との話し合い」の進行(嘉島町)	12月7日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)
7月9日	「FAJ九州支部災害復興支援とファシリテーション勉強会」(福岡)	12月8日	「嘉島町社会福祉協議会、嘉島町役場対象のファシリテーション講座」(嘉島町)
7月11日	「嘉島町役場と社協の話し合い」(嘉島町)	1月5日	「嘉島町今後の支援について協議会」(嘉島町)
8月4日	「嘉島町企画調整会議」(嘉島町)	1月8日	「2017年復興・減災フォーラム 地域存亡と災害からの復興～求められる再生への担い手とは～」グラフィック支援(宝塚)
8月5日	「嘉島町災害対策本部会議」(嘉島町)	1月12日	「静岡県茶の国会議」参加(静岡)
8月8日	「嘉島町企画調整会議」(嘉島町)	1月14日	「福島の今を伝える講演会」の進行支援(横浜)
8月18日	「小高区帰還者生活再建支援検討会」(南相馬)	1月16日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)
8月19日	「嘉島町企画調整会議」(嘉島町)	1月21日	「石巻市NPO連絡会議」運営進行(石巻)
8月19日	「NPO法人あさがお職員向けファシリテーション研修」(南相馬)	1月21日	「仮設住宅での「みんなの家」活用促進ヒアリング」(嘉島町)
8月20日	「東日本大震災いわて子ども支援センター かまいしこども園ファシリテーション研修」(釜石)	1月28	「ファシリテーター養成プロジェクト・2016年度
8月26日	「東日本大震災いわて子ども支援センター保育士向けファシリテーション研修」(盛岡)	・29日	ラーニングコミュニティ・ネットワーク〈FAN〉」(仙台)
8月26日	「嘉島町企画調整会議」(嘉島町)	2月8日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)
8月29日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)	2月20日	「小高区帰還者生活再建支援検討会」(南相馬)
9月2日	「嘉島町仮設等連携会議の勉強会」(嘉島町)	3月4・5日	「第12回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練」参加(静岡)
9月4日	「FAJ沖縄サロン報告書読み語り会」(沖縄)	3月8日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)
10月2日	「熊本地震での災害復興支援グループの活動紹介」(東京)	3月13日	「JCN 5年間検証プロジェクト宮城県ヒアリング」(石巻)
10月3日	「東日本大震災受入被災者の個別支援のための研修会」進行支援(名古屋)	3月17日	「嘉島町支え合いセンターふりかえり会」(嘉島町)
10月5日	「やまがた避難者支援協働ネットワーク県(全体)意見交換会」(山形)	3月23日	「嘉島町支え合いセンター運営会議」(嘉島町)
10月11日	「嘉島町仮設等連携会議」(嘉島町)	3月24日	「嘉島町避難所班長の集い」運営進行(嘉島町)
10月15・16日	「ファシリテーター養成プロジェクト2016年度 ラーニングコミュニティ・ネットワーク〈FAN〉」(仙台)	3月28日	「JCN 5年間検証プロジェクト福島県ヒアリング」(福島)
10月17日	「東日本大震災受入被災者の個別支援のための研修会」進行支援(岡崎)	3月29日	「JCN 5年間検証プロジェクト岩手県ヒアリング」(遠野)
10月18日	「小高区帰還者生活再建支援検討会」(南相馬)		

※2016年度は、10月より災害ボランティア活動支援プロジェクト会議「平成28年熊本地震災害被災地支援活動団体助成事業」に申請し、助成を受けました

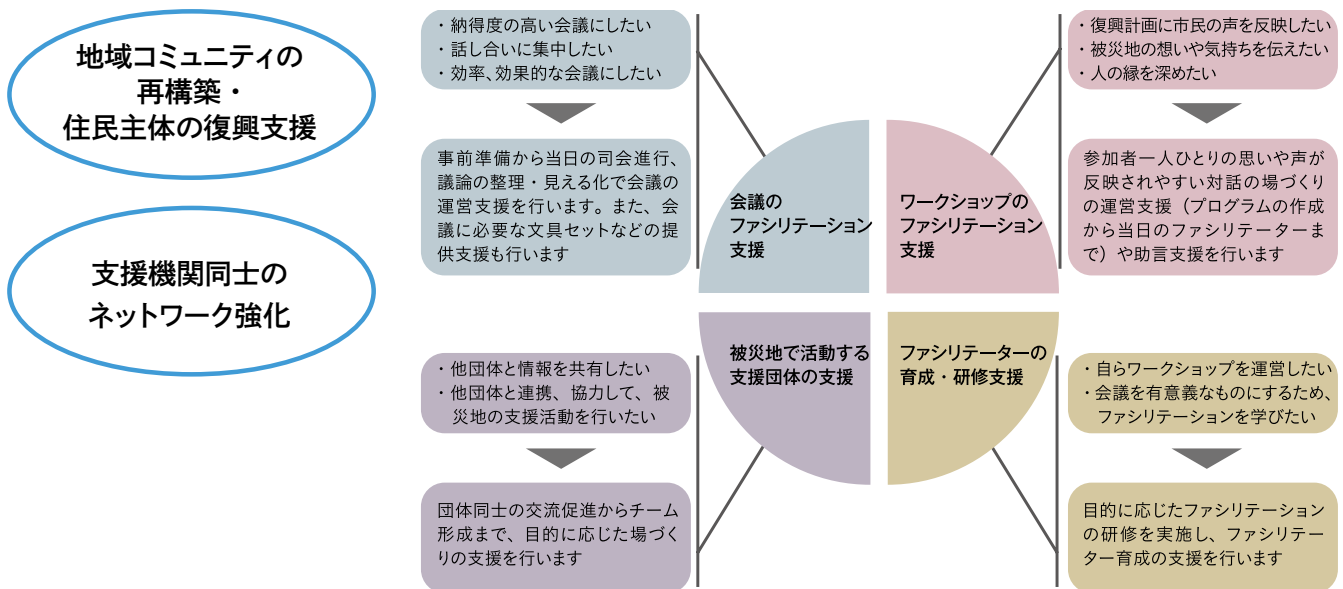
日本ファシリテーション協会と災害復興支援グループ

ファシリテーション(Facilitation)——、人と人、人とコトとの関わり方に働きかけ、集団による学習や問題解決、未来創造などの場においてプロセスと結果がよりよいものとなるよう支援・促進することを意味します。その役割を担うのがファシリテーターで、話し合いの場で参加と相互作用を促す進行役などがわかりやすい例です。

特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会(FAJ : Facilitators Association of Japan)は、ファシリテーションの普及を通じて、多様な人々が協働しあう自立分散型社会の発展を目指し2003年に法人として設立、2004年には内閣府より特定非営利活動法人(NPO)の認証をうけました。30~40代の社会人を中心に会員を増やし、2017年5月現在、約1700名の会員が活躍する団体となっています。その最大の特長は、専従職員を置かず、多くの会員が自ら学んだファシリテーションスキルを使って、すべてがボランティアで運営しているという点です。

災害復興支援グループは、2011年3月11日に東北・関東を襲った地震・津波・原発事故の複合大災害直後にFAJ内に設置され、以後、「地域コミュニティの再構築・住民主体の復興支援」、「支援機関同士のネットワーク強化」を柱に各地で活動しています。
※災害復興支援グループは2011年、「災害復興支援室」として設置され、2016年よりFAJ内の専門委員会「ファシリテーションサポート委員会」の1グループとして活動しています

〈災害復興支援グループのふたつの活動領域と活動概要〉



特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会

ファシリテーションサポート委員会 災害復興支援グループ 2015年度～2016年度 活動報告書

2017年5月26日発行

編集 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 ファシリテーションサポート委員会 災害復興支援グループ

浅羽雄介、浦山絵里、遠藤智栄、尾上昌毅、加藤貴美子、杉村郁雄、鈴木まり子

発行 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 東京都渋谷区千駄ヶ谷三丁目12番8号 www.faj.or.jp

お問い合わせ(Eメール) fukkou311@faj.or.jp